

研究タイトル:

保健体育授業における社会的スキルの向上



氏名: 古内 孝明 / FURUUCHI Takaaki E-mail: furuuchi@sendai-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 修士(体育学)

所属学会・協会: 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ教育学会

研究分野: スポーツ科学, 体育, 健康科学分野

キーワード: 身体教育, 学校体育, 武道論

技術相談
提供可能技術:

- ・協同学習授業を用いた保健体育授業の提案
- ・保健体育授業の分析・評価
- ・柔道コーチング

研究内容:

(1) 保健体育授業における協同学習の効果

協同学習モデルは、身体的、社会的、認知的、情動的な領域に効果をもたらすことができる学習指導モデルである。

協同学習モデルでは、5つの重要な構成要素がある(表1)。

とりわけ、協同学習モデルを適用した保健体育授業において、身体的、社会的領域に与える効果を明らかにすることを目的に研究している。

具体的には、以下の点を研究している。

- (1) 授業受講者のアンケートの回答をもとにした単元の作成
- (2) 協同学習モデルを適用した保健体育授業における役割の受容過程
- (3) 保健体育授業における身体的、社会的領域の向上
- (4) 発達段階に応じた協同学習モデルの適用方法

表 1. 協同学習の構成要素

1	互恵的な相互依存関係
2	対面的なやりとり
3	個人の責任
4	対人や小集団での社会的スキルの指導
5	チーム活動の振り返りと改善機会の確保

(2) 新たな柔道授業の確立

柔道授業では、グループ学習内で受講者がiPadを活用して取り組んでいる。

グループは、柔道経験の有無等を考慮し、作成する。

グループのメンバーと動画で動きを確認する等、コミュニケーションを取ることで技能が向上する。

また、お互いにコミュニケーションを取り、協力することで社会性の向上も期待される。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	